

# 刊行にあたって

栃木県連合教育会では、先生方の要望などから設定した「SDGsの視点からの学習活動」をテーマとした研究部会を令和4年度に組織いたしました。また、幼稚園から高等学校まで完全実施になった現行学習指導要領には、「持続可能な社会の創り手」の育成がかかわれています。そこで、研究部会では令和7年度までの4年間の予定で、SDGsという考え方の中で、児童生徒にはどのような「持続可能な社会の創り手」としての資質・能力を育成するのか、また学校における取組はどうあるべきなのかなどについて調査・研究を進めているところです。この度、令和5年度までの研究成果を中間報告として先生方に還元することにいたしました。

さて、今でこそ様々な場で使われ、メジャーな言葉となりましたSDGs (Sustainable Development Goals 通称「グローバル・ゴールズ」)ですが、「2015年の国連サミットにおいて加盟国が合意した国際目標で貧困や飢餓、気候変動や環境破壊など、地球規模の課題を解決するため17のゴールとそれを達成するための169のターゲットから構成され、地球上の『誰一人取り残さない』ことを誓い、2030年までの達成を目指す。」というものです。

今回の中間報告では、前半の研究編は、令和5年度に各学校にご協力をいただいたSDGsに関する調査結果に基づく考察が中心となっております。後半の資料データ編では、児童生徒及び教職員からのアンケート調査結果を掲載いたしました。栃木県の先生方には、この研究成果を少しでも栃木県の子供たちのために生かしていただければ有難く存じます。

更には、現在、教科等横断的な学習の視点などからのカリキュラム・マネジメントの充実が望まれております。そうしたことも踏まえて、SDGs 17のゴールと教育課程及び各種指導計画との関連などについても、中間報告を参考にいただければ幸いです。

なお、今後は、研究委員の先生方に実際の授業実践を通して更に研究を深めていただくなどして、令和7年度に最終報告を取りまとめる予定になっております。

最後になりましたが、中間報告をまとめていただいた部会長の宇都宮大学の出口明子先生、指導助言者の栃木県教育委員会・栃木県総合教育センター・宇都宮市教育委員会の先生方、具体的な指導に即した形で調査・研究を進めていただいた小・中・高・特別支援学校の研究委員の先生方に、衷心より感謝申し上げます。